

## 「トビタテ留学」

私は小学3年生のころから本格的に将棋をはじめた。地元に将棋教室があることを知り、何度も行くうちに夢中になつていつた。そこには同世代のライバルがたくさんいて、お互いに切磋琢磨して強くなつていったのだと思う。

それからずつと続けていたが、大学生になつて将棋の環境も大きく変わった。高校生までは個人戦がメインであつたが、大学将棋では大学ごとにチームを組んでの団体戦がメインとなる。今まで、学校といくくくりで将棋をするという経験がほとんどなく、激的だった。山形大学は長年、東北地区大会を勝ち上がることができず、東北大學が毎回代表と

「私と将棋」



# 本間瑞生

—失敗から学ぶ、  
失敗を恐れない—」

白井 拓也

(大学院農学研究科2年)

2018年1月、トビタテ留学  
J a p a n(以下トビタテ)と呼ばれる留学制度にかかるべく準備を開始しました。トビタテは全国コースと地域人材コースに分かれており、まずはその選択からでした。私はYoutubeで実際に過去のトビタテ生を見ていました。その中で挑戦したい気持ちが芽生えました。それは地域人材コースではなく、競争率の高い全国コースに挑戦するというものでした。

「トビタテ留学

テ留学

A photograph of a young man with glasses, smiling and holding up a book titled "トビタテ JAPAN". He is making a peace sign with his right hand. The book cover features a stylized Japanese character above the text "TOBITATE! NEXT JAPAN".

申請書の作成が最初の難関でした。どうしてトビタツのか、自分の原点を見つめなおす機会でもありました。私の指導教官である佐藤智准教授のご指導もあり、1次審査を突破しました。続く2次審査では民間企業の人事採用の方による面接、そして他の候補者とのグループディスカッションが控えていました。面接もグループディスカッションも素で挑んでしまいました。それにより自分を表現できた面もありますが、明らかに準備不足でした。これは1つ目の失敗でした。

無事合格の知らせが届き、私の中では初めて大きな挑戦をし、結果を出せた瞬間でした。しかし、大きな失敗が待ち受けていました。Visaが取得できず、留学計画の変更を迫られたのです。特殊なVisaで現地の教育省から推薦状が必要でした。それが思うように進まず、気づくとすでに発2週間前でした。これが2つ目の大きな失敗でした。私は予定の見通しが甘く、優先順位をつけて事をなすことが苦手でした。それが災いしました。これが2つ目の大きな失敗でした。トビタテは厳しい留学プログラムです。当初の計画通りに活動しなければ奨学金は一切出ません。私は成し遂げられなかつたという事実やサポートしてくださった方々への申し訳なさでひどく落ち込みました。しかし

佐藤先生は「いい経験しているぞ。」と言ふことなく、おっしゃってくださいました。心が救われる思いでした。また、学務の方々には計画の変更に向けて助言や協力を頂きました。た。インドネシアの留学生には、V i s aについて問い合わせを何度も何度もしてくれました。彼らも自分の予定を抱えていましたが、笑顔で協力してくれます。本当に周りの人助けなくして今はないです。感謝感謝です。

まさに今(10／15)も計画変更の手続き中で留学は決定しています。非常に不安な思いもあります。しかしそれと同時にトビタツ力を蓄えている時間でもあります。「失敗を恐れず挑戦し、失敗から学ぶ」その重要性を身をもつて学んでいます。この経験が実を結ぶように気を引き締めて頑張ります。

「アガ

卷之三

留学制度にかかるべく準備を始めました。トビタテは、スリランカと地域人材コースにており、まずはその選択

佐藤先生は「いい経験しているぞ。」とおっしゃってくださいました。心が救われる思いでした。また、学務の方々には計画の変更に向けた助言や協力をして頂きました。インドネシアの留学生にはVistaについて問い合わせを何度も何度もしてくれました。彼らも自分の予定を抱えていましたが、笑顔で協力してくれます。本当に周りの人の助けなくして今はないです。感謝、感謝です。まさに今(10／15)も計画変更の手続き中で留学は決定しています。非常に不安な思いもあります。しかしそれと同時にトビタツ力を蓄えている時間でもあります。「失敗を恐れず挑戦し、失敗から学ぶ」その重要性を身をもって学んでいます。この経験が実を結ぶよう気を引き締めて頑張ります。

## 留学生の声

MENG TONG (孟彤) 農学研究科 2年(堀口健一研究室)



## On the Way in Pursuit of My Dream

I am Tong Meng from China. In my full name, Meng is my surname, the same as Mencius, one of the representatives of the Confucian school, the Second Sage of China, the pioneer of the thought of "The people are more important than the emperor". Tong refers to red, which symbolizes auspiciousness and vitality in China. Compared to the pronunciation of Meng, Tong is easier, so everyone calls me Tong usually. If everyone has lived a similar school life before university, our lives must have different brightness during and after university. The university is the beginning of our dreams, in which we are both the director and the protagonist to start controlling actively our own life. I have a dream that I hope to acquire professional technologies and more than one foreign language. Because the technology can bring us a high-quality life and the foreign language can communicate with more people. I am crazy about one word "If you got a dream, you gotta protect it" in the film of "The Pursuit of Happiness." The Dream need to be protected by practical actions. Once the dream has been put into practical actions, it will become holy. I am running toward my dream and enjoy achieving my dream by practical actions. I like to go to the classroom early in the morning with birds singing and go to the library to study at night until I hear the bell ringing when the library closes. In order to better grasp knowledge and improve the ability of using knowledge, I used to visit and study at the technology site during the holiday time. The participation of Japanese community and sports community makes life on campus rich and colorful.

In 2015, I was a sophomore. Our university conducted an International Student Exchange Program (ISEP) between our undergraduates and the Yamagata University, Japan. Our university chose two students to Japan for a one-year exchange study. I had the courage to try to apply and get this opportunity by virtue of professional knowledge and foreign language ability accumulated in long-term. I am grateful so much to two universities for offering this opportunity for me. In the life of the International Student Exchange Program (ISEP) for one year in Japan, I felt the Japanese culture, was fond of the attitude of Japanese continuous improvement, and began to learn Japanese. I obtained the level N2 of Japanese Language Proficiency Test (JLPT) in December 2016 and applied for a master's degree of Yamagata University. Now I am in the second year of my master's degree of the Animal Science and Technology Laboratory in Bioproduction department of Graduate School of Agricultural Sciences, Yamagata University. My chief supervisor is the professor Horiguchi and associate supervisors include the professors Katahira, Matsuyama and Urakawa. My topic is the "Research on using artificial intelligence to recognize the behaviors of broiler chickens." At present, the research has been carried out smoothly, accumulated a good deal of significant experience and achieved some results.

The Graduate School of Agricultural Sciences, Yamagata University is in Tsuruoka, Yamagata-ken, Japan. I arrived here for the first time in the season of sakura blossoms. Clean and tidy streets of Tsuruoka against the pink sakura were matched with the Japanese-style pastoral architectures, exceptionally fresh and beautiful. Tsuruoka, a beautiful city around mountains and near the sea, has distinct four seasons and maritime climate. Tsuruoka snows in the winter but not too cold. I am impressed in terms of Japanese social cultures. The cars do not whistle basically on streets, the people do not make/answer telephone calls on trams as far as possible and so on. I am so thankful for my professors and members of the laboratory in research life. The professors teach me with assiduity technically and logically in a rigorously scientific research attitude and I benefit a lot. The members of our laboratory are friendly. We participate in experiments and support each other to make progress together. The laboratory holds events at regular intervals such as appreciations of sakura blossoms and fireworks, study and training tours, Year-end parties and New Year parties to increase another color to our learning life, by which the communication let us understand more each other and bilateral cultures. I am very happy to live in the Graduate School of Agricultural Sciences, Yamagata University. Here, I acquired professional technologies by a rigorously scientific research attitude and meticulous logic. I can communicate in more than one foreign language (Japanese and English) every day and make a great many of friends in my daily life.

I enhance and perfect myself constantly on my way in pursuit of dream, substantial and happy. Finally, I express sincere gratitude from the depth of my heart to the people who helped me.

鶴窓会だより



A photograph of a man standing by a riverbank, holding a large fish in a metal landing net. He is wearing a dark jacket and jeans. The background shows a calm river and some trees.

# 北海道支部 支部報告

と早坂前副会長（昭和41年林学科卒）に今までの労いに対し

て、磯部会長から感謝状と記念品を贈呈させていただきました。

（文責・竹内 秀（平成9年生物環境学科卒））

## 月山会活動報告

月山会会長

磯部 勝彦

（昭和52年農業工学科卒）

昨年9月に北海道で初めての震度7を観測した「北海道胆振東部地震」が発生しました。厚真町安平町むかわ町では、土砂崩れ、家屋倒壊、農地・農業用施設が被災し、特に被害が大きかった地域では今秋の稻刈りを断念した農家さんもいました。

また、北海道全域が大規模停電となり、JRの全線運休、空の便も全便欠航し、スーパー、コンビニから食材が消え、多くの世帯が電気のない生活を強いられました。

さて、本年9月28日（土）16時から、札幌市内のホテルで鶴窓会北海道支部の恒例行事である月山会を23名の会員の参加により開催しました。

第30回となつた会は、磯部会長のあいさつと乾杯で開宴しました。宴の中で、菅原前会長（昭和40年農業工学科卒）

（昭和58年農業工学科卒）から出席した大沼広行氏

山形大学農学部鶴窓会代議員会に出席した大沼広行氏

ら会議内容の報告、鶴窓会会費納入のお願いがありまし

た。その後、会員からの近況報告や久しづりの再会から思い出話に華を咲かせ、鶴窓会本部からいただいたお酒を酌み交わしながら、楽しい時間を過ごしました。

最後に逍遙歌を皆で齊唱しようとしたところ、今回出席の最年長加藤光則氏（昭和31年農学科卒）から民謡を披露したいと申し出があり、伴奏もない中で声高々に歌つていただきました。

和やかな雰囲気の中、記念撮影をした後、梶田敏博副会長（昭和58年農学科卒）の締めの音頭で閉会となりました。

今年で月山会も第30回目を数えることとなり、本会が歴史ある会となつていることを改めて感じることができます。

次回開催は令和2年9月26日（土曜日）を予定しています。多数の皆様の出席を心からお待ちしています。



村山支部総会 令和元年5月12日(日) 於:「山形国際ホテル」

## 置賜支部

前事務局長

石川 庄一

（昭和52年農学科卒）

本支部は、総会を隔年開催しており、今年は9月14日に南陽市のむつみ荘で開催しました。

総会に先立ち、平成30・31年に亡くなられた2名の方のご冥福をお祈りしました。

総会には鶴窓会本部から齋藤博行会長をお迎えし、「農学部及び鶴窓会の現状と課題について」の講話をいただきました。

続いて、事務局の小生が高畠町に新設された「もつくる（屋内遊技場）」、「高畠町立図書館」の話題提供をいただきました。

「もつくる」は7月26日に県内最大規模の木育施設で、旧高畠四中体育馆を改修して整備したものです。施設内には子育て支援センターもあります。保育士5人が常駐し、一時預かりも対応し、町外の人も遊びることから、オープンして1か月半で2万人の利用がありました。

図書館も町内産の木材を使用していることと、町出身の童話作家浜田広介先生の作品コーナーもあることから多くの人に利用されていました。7月27日のオープンから2か月で2万人の利用者が訪れました。



置賜支部総会 令和元年9月14日(土) 於:南陽市「むつみ荘」

## 村山支部

支部長

齋藤 博行

（昭和45年農学科卒）

支部総会を令和元年5月12日に山形国際ホテルで開催しました。今まで9月か10月に開催していましたが、今年3月に農学部を卒業して新年度早々に支部総会の開催です。

新入会員に支部総会の案内状を送付したところ、今年度は山形県農業総合研究センターに勤務する女性2名が出席して下さいました。村山支部として初めてのことでした。

昨年、関西支部総会で来賓として参加していた米沢工業会の方から支部総会に在学する学生から研究報告をして頂いたら若い支部会員の参加があつたことを聞いていたので、これをヒントにして支部新入会員の歓迎会を兼ねた総会にしました。

20年間休眠した村山支部活動を再開した平成3年の参加者は70名で、当時は第1期生が退職して間もないこともあり現職の参加者が多かったです。

その後は次第に参加者が少くなり、昨年は支部会員900名のうち17名まで減少しましたが、今年は21名で少し増加したので良かったです。

総会では、鶴窓会会長の佐藤晨一氏から来賓の挨拶をいただき、議事はスムーズに進められ、新役員も事務局案で承認され、支部長が齋藤博行、副支部長が佐藤孝宣氏、鈴木健治氏、事務局長が須藤佐蔵氏になりました。

今後は、現役世代の方々から多く参加して頂けるような支部活動が求められると思いますので、大学と連携を図りながら色々と摸索していきたいと思います。



月山会(北海道支部) 令和元年9月28日(土) 於:「TKPガーデンシティ札幌駅前」

珍しい置賜の話題を紹介するところです。

と、長井市では道の駅「川のみなと長井」と長井ダム湖「ながい百秋湖」の間で水陸両用バスの運行が行われました。

5月31日から7月28日までの金土日祝日に各日4便運行の予定でまた延長されました。しかし、今年は降雨が多くなったこともあり、ダム湖水位が低下したため8月上旬で運行は終了することになりました。

また、「ながい百秋湖」では10月5日から11月4日までの週末、屋外年園芸卒に事務局長をお願いして退任することになりました。

本部の総会ではお目にかかることはできませんが、鶴岡を訪問した折には事務局のある農学部会館の二階事務室に顔を出させていただきたいと思います。

本部の事務局の皆様には大変お世話になりありがとうございました。

来年も楽しんでもらえるよう運行予定があるとのことなので、皆さん楽しみにしていただけます。

今年（令和元年）総会において役員改選が行われ、永年支部長を務められた小川洋一郎さんが勇退され、新しく前副支部長の佐藤誠一郎さん（昭和55年農工卒）が支部長に選出されました。小川前支部長は森元支部長の後を